

#### 4. 地域資源を活用した「道の駅」(山口県萩市)

##### ～ポイント～

交通施設(道の駅)の整備による新たな魅力の創出

観光資源としての認識の薄かった地場産品を観光商品として活用するために、交通施設(道の駅)を卸売市場と隣接して整備し、観光客や地元住民をターゲットに、地場産品をアピールしている。

##### 1) 山口県萩市の概要

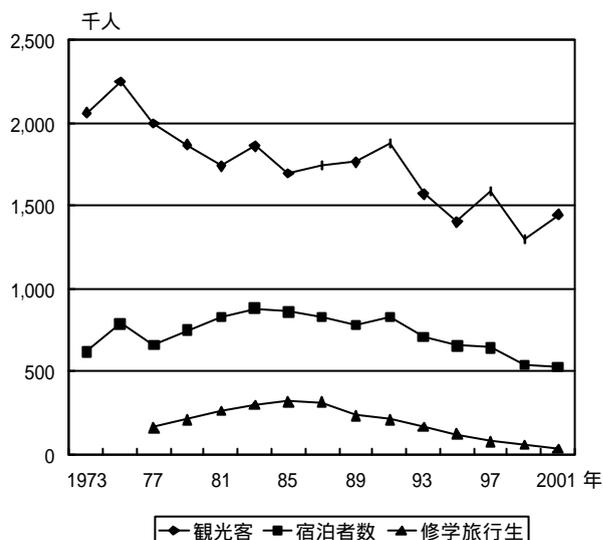
萩市は、山口県北部に位置し、日本海と中国山地に囲まれた城下町として発展し、市内には江戸時代の街並み、歴史的景観が数多く残っている。また、明治維新の志士を多く輩出した「維新の町」としても知られ、多くの文化財が点在している。

市内までは、山陽新幹線小郡駅から直通バスで約70分、中国自動車道美祿IC(九州方面)から約50分、山陽自動車道防府東IC(広島・大阪方面)から約70分である。また、萩・石見空港からバスで約80分である。

九州・中国地方からのマイカー、貸切バスなど車利用による観光客が多い。

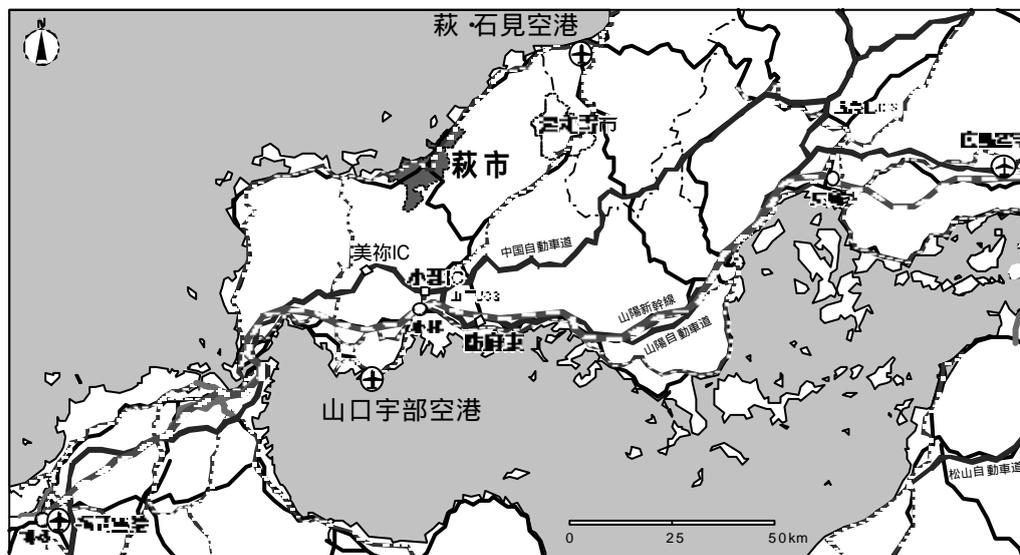
観光客数は1975(昭和50)年の山陽新幹線岡山～博多間開通時をピークに減少、宿泊者数についても、修学旅行生の減少に伴って減少しつつある。

萩市の観光客・宿泊者数等の推移



出所) 萩市資料より作成

萩市の位置



## 2) 交通施策の概要

### 道の駅「萩しーまーと」の開業

2001(平成13)年4月、萩市沖で取れた魚介類を消費者に直接販売する産地直送施設「萩しーまーと」を萩漁港隣、山口県が約4haの公有水面を埋め立てた国道191号沿いの土地の一画に開業した。施設には、鮮魚や海産物店、一般食品など17店舗の他に、海鮮料理を専門とするレストラン3店の計19店舗が入居しているほか、萩の食に関する情報や観光情報を自由に検索できる情報ターミナル、大型駐車場(71台収容)を併設している。

2002年3月には、「萩しーまーと」の海側に水産卸売市場の整備を行った。

#### < 施策実施の経緯 >

##### 漁業協同組合の合併にともなう施設整備

萩・阿武地区の水揚量は年約1万トンに上り新鮮な海産物に恵まれながら、その8割を首都圏、近畿圏など地元以外に出荷しており、地元にはあまり新鮮な魚が残らなかった。そこで、規模の拡大による漁価の安定と流通の効率化を目的に、2001(平成13)年4月、萩市と阿武郡の14漁協が合併し、「山口はぎ漁業協同組合」を発足した。これにより、魚種ごとに分かれていた各地の産地市場を新市場に統合した。こうした中で、観光客や地元住民向けに地場の魚をアピールする戦略拠点として「萩しーまーと」を整備した。

#### < 推進体制 >

##### 地元水産・農産品事業者と全国公募の運営スタッフによる施設運営

同施設に入居する水産・農産品事業者などで組織した「ふるさと萩食品共同組合」が運営主体である。同組合の中核スタッフは、全国公募による民間企業出身者が占め、外部からの客観的な視点を施設運営に取り入れている。なお、同施設の整備は、「食品商業集積施設整備事業」「食品販売業近代化事業」(平成12年度農林水産省)、「道の駅」(国土交通省)の認定を受けた補助事業である。

道の駅「萩しーまーと」の位置



出所) 道の駅「萩しーまーと」ホームページ  
(<http://www.axis.or.jp/~seamart/index.html>)

道の駅「萩しーまーと」の外観



「萩しーまーと」内部



### 市内循環バスの路線の新設

萩市では「萩シーマート」の開業に伴い、市内循環バス「まあーるバス」の既存路線に同施設を経由する新路線を追加し、文化財の点在する市街地から離れた同施設への観光客の公共交通アクセスを確保している。

### 3) 観光施策の概要

#### 特産品の全国ブランド化の推進

萩市では、観光業界と連携したPR活動等の実施により、「萩の竹」「萩かまぼこ」のブランドづくりを推進している。すでに「瀬つきあじ」「けんさきいか」「甘だい」の三魚種については売り出し中である。

#### < 推進体制 >

#### 地元産業団体との連携

「萩の魚ブランド化推進協議会」(会長 = 萩海産物加工協同組合理事長)を設立して日本海で捕れる魚介類の食材開発などを行っている。

### 4) 交通と観光の相関性

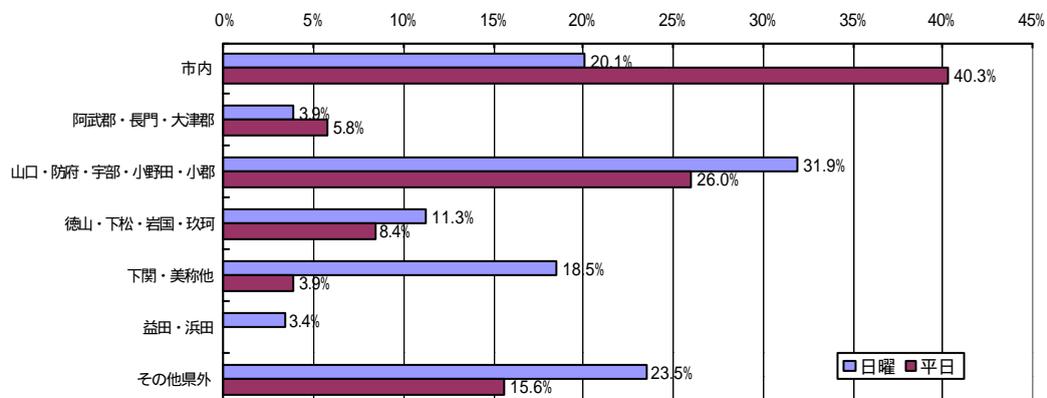
#### 観光潜在力を活用した道の駅の整備により新たな魅力を創出

開業年である2001(平成13)年度の入館者数は約150万人を数え、萩市全体の観光客数の増加に寄与したと考えられている。

また、価格帯は、地元スーパーレベルと同レベルを目指すことにより、平日も地元住民が多く訪れ、来訪者の平日・休日格差を緩和し、経営の安定化に結びついている。

さらに併設されているレストランは地場産品を中心としたものであり、平日は地元利用でにぎわっている。このように、地域の食文化を観光客向けに発信すると同時に、これまで地元で水揚げされながら口に入る機会の少なかった海産物を地元住民に提供することにより、地場産品の観光資源としてのPR、定着化を図っている。

道の駅「萩シーマート」の来館者のエリア(日曜・平日格差)



出所) 道の駅「萩シーマート」資料より作成

## 5) 今後の方向性と課題

地域に根ざした店舗となるために、行政や各種団体の連携を図る

道の駅「萩しーまーと」では、観光客誘致の核施設とともに地域に根ざした店舗となるべく、行政や各種団体の連携を図っていききたい。

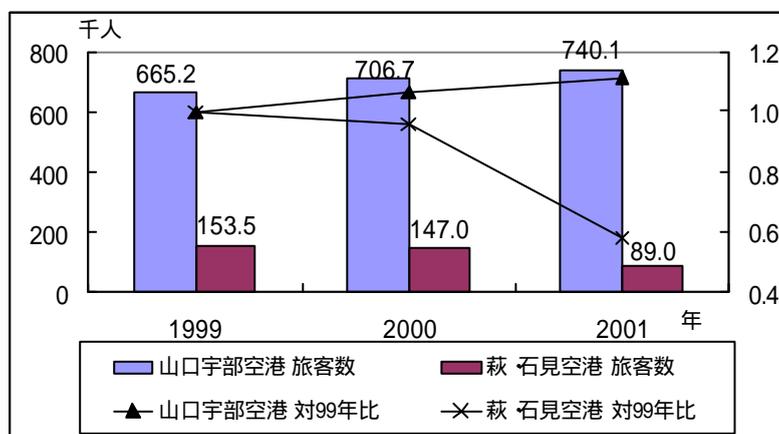
### 萩・石見空港の利用促進

大手旅行会社の企画する旅行商品は、福岡空港（あるいは広島空港）から入り、宮島、岩国、秋吉台秋芳洞、萩、津和野を2泊3日で周遊して広島空港（あるいは福岡空港）から出るコースが中心である。萩・石見空港（1993年開港）は、萩市の最寄り空港であるにもかかわらず、1日に東京便2便、大阪便1便と便数が少なく、旅客数は減少し認知度も低い。そこで、島根県、山口県の同空港周辺市町村により「石見空港利用拡大促進協議会」（2002年「萩・石見空港」に改名）を設立し、ビジネス利用者を対象にした東京・大阪のホテルとのタイアップ、東京・大阪在住の地元出身者を対象とした地元宿泊施設とのタイアップによるそれぞれの格安パック商品を企画して、一般利用による同空港の利用促進を図っている。

### 地方航空路線のハンディキャップ

2002（平成14）年7月には、日本航空が山口宇部～東京便に新規参入し、1977年以来、全日空便のみだった山口宇部空港のダブルトラック化（同一路線への2社乗り入れ）により、観光パックの低料金化が進行することが予想される。便数だけでなく価格面においても、萩・石見空港の利用拡大に向けて競争条件が厳しくなるものと思われる。

山口宇部空港、萩・石見空港の旅客数の推移



出所) 萩市資料及び山口宇部空港関連資料より作成

担当	萩市経済部観光課 ふるさと萩食品協同組合 道の駅 萩しーまーと	連絡先	0838-25-3139 (電話) 0838-24-4937 (電話)
----	---------------------------------------	-----	--